

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年 1月 20日

1. 職名・氏名 教授・木野龍太郎

2. 学位 学位 博士（経営学）、専門分野 工業経営論・生産管理論、
授与機関 立命館大学、授与年 1999年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 生産管理論Ⅰ（2）3年生配当
② 内容・ねらい モノづくりの技術（生産技術）のなかの製造技術を取り扱い、モノづくりの歴史的な流れを概説したうえで、トヨタ生産方式に代表されるような、日本の製造技術の特徴について講義を行う。管理手法そのものだけでなく、日本企業の持つ競争力と、それを支える技術という側面に着目して、進めていっている。モノづくりに関する基礎知識と歴史的経緯、そして日本の代表的な生産方式であるトヨタ生産方式の仕組み、さらに日本の高品質なモノづくりの土台となっている品質管理手法について学ぶことで、日本の製造技術の発展の経緯や、その競争力の源泉などについて、理解を深めることを目標としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1. 本年は遠隔講義での実施となったため、それを活かしてビジュアルな教材を活用し、イメージしやすく工夫した。 2. 講義の臨場感を出すために、講義そのものはライブで行ったが、動画を撮影して Google Classroom にアップロードし、いつでも復習出来るようにした。 3. 配付資料や連絡事項も全て Google Classroom にアップロードし、復習がやりやすく出来るように受講生の利便性を図った。 4. Google Forms を活用して小テストや課題を実施し、なるべく早く、細かい受講生へのフィードバックを行えるようにした。 5. 工学的知識をあまり持たない学生であっても理解できるように、なるべく難しい専門用語を使うことは避けた説明を行った。 6. 基本的な事項をきちんと理解できるように内容を絞り込んだうえで、講義の復習を促すために毎回の小テストを実施し、単位ごとに提出課題を課すことで、知識の定着を図っている。これらの結果は出欠確認を兼ねるとともに、平常点として成績に反映させていることもあり、学生の出席率は高く遅刻も少ない。また、出席者からは講義の復習になり、理解が深まる、といった肯定的な感想が出されている。 7. 授業の内容をサポートする形でビデオを積極的に活用し、講義内容と関わらせながら解説を行うことで、内容の理解を深める取り組みを行っている。また、必ず感想文を書かせて内容の定着を図るとともに、その内容を授業にフィードバックすることも行っている。 8. 2. の小テスト及び確認テスト、3. のビデオ感想文においては、学生の意見を取り込むとともに、質問には電子メールを使って回答するなどによって、双方向的な講義を心がけており、一方向的な講義にならないようにしている。 9. 製造企業の経営者や若手社員（本学卒業生）をゲストスピーカーとして最終講義にお招きし、会社概要やその会社の取り組みに加えて、実際にどのような仕事をしているのかについてもお話頂くことで、経営学の勉強だけでなく将来の進路を考えるうえでも役立つようにしている。 10. 福井県は特長ある技術を持った製造企業が多く、そうした企業が自動車や家電などの技術を支えていることから、それらを講義内容と関わらせながら、福井県内企業の紹介なども行っている。その結果、学生が福井県内の製造企業に関心を持ち、紹介した企業に就職している。

例も見られている。 11. 講義内容が現実の社会とどのように関わっているのかを、学生が理解しやすくするために、しばしば新聞記事などを資料として配布し、理解をさらに深められるようにするとともに、学生が新聞をあまり読んでいないという現状があるので、資料を配付し説明することで、新聞を読んで積極的に知識を吸収することを促している。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 生産管理論Ⅱ（2）3年生配当
② 内容・ねらい 「生産管理論Ⅰ」で学んだ製造技術に関する知識を踏まえて、本講義では製品技術を主に取り扱い、日本の製造企業における研究開発体制の特徴と、サプライヤー（資材・部品供給会社）との企業間関係の態様、そして製造業における人材育成や管理と、その背景にある労使関係などについて学ぶ。日本のモノづくりに関する製品開発・購買管理についての知識を深め、それが製造企業の競争力とどのように関わっているのか、またモノづくりの土台ともいえる人事管理・人材育成について学ぶことで、「生産管理論Ⅰ」「生産管理論Ⅱ」とあわせて、日本のモノづくりの技術の全体像とその特徴、競争力との関係について理解を深めることを目標とする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1. 基本的な進め方は「生産管理論Ⅰ」と同じだが、主な受講生である3年生が就職活動の直前であることもあり、特に福井県内において盛んな製造業への就職活動を行う際に、知識として役立つ内容を盛り込むことで、学生の進路選択に役立たせるとともに、学習意欲の向上も図っている。 2. 一昨年より福井県内のモノづくり企業の方をゲストスピーカーにお招きして、実際のモノづくりについてお話頂いた。講義で学んだことと実践とがどのように関わっているかについて学ぶことが出来て、学生にも好評であった。また、ゲストスピーカーが所属する企業は、一般の学生にはなかなか馴染がない企業であることから、採用活動に関する積極的なアピールとして活用することが出来て、双方にメリットがある取り組みとなっている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 外書講読Ⅰ（2）2年生配当
② 内容・ねらい 企業のアニュアルレポート（英文）を用いて、モノづくりに関わる英語を日本語に訳して輪読しながら、補助資料による補足説明や、そのテーマに関する議論なども交えて、モノづくりを行う企業の経営について学んでいく。多読よりもむしろ精読に重点を置き、中学や高校で学んできた英文法などについても復習を行いつつ、英文を正確に理解する力をつけることを目標とする。テクニカルタームについてきちんとおさえながら、モノづくりを通じた企業経営に関する知識を高めていく。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1. 高校レベルの英語の知識についてもきちんと復習を行い、文法的な説明も行うことで、英文を正確に読み・書くという能力を高めるようにしている。これは、受講生が経営に関する知識を持ち、それに関わる英文を読み、書くという能力の土台作りとなり、将来的に海外とのビジネス・コミュニケーションにおいて、英語の書面や電子メールでのやりとり行えるようにすることにつながる、という意味も持っている。 2. テキストは、トヨタ自動車株式会社のアニュアルレポートを使用している。同社は学生にとって身近な企業であることから理解しやすく、企業経営全般の知識を高めることにつながるからである。企業経営に関わるテクニカルタームについては、その内容もきちんと説明し、今後の専門科目の履修に役立つようにしている。 3. 初回と最終回に関連する内容のビデオを放映し、企業活動のグローバル化をイメージ出来るようにすることで、学習への動機付けを行っている。 4. 毎回、必ず全員にあてるようにしており、学習への緊張感を高めるとともに、授業に積極的に参加するようにさせている。 5. 学習した内容については毎回小テストを行い、英単語及び英文和訳をさせることによって、受講生がきちんと復習することを促している。 6. 最終レポートは、半年間のまとめを英語で記述する方式にすることで、全体の復習と英作

文の能力を高めることに取り組んでいる。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅰ（2）3年生配当
② 内容・ねらい 前期は共通テキストを用いてモノづくりの基本的な仕組みを学ぶ。後期からは、自分自身の学問的関心に基づいてテーマを設定し、各自が調べてきた内容をゼミで報告し、議論をしてい きながら、卒業論文の基礎となる部分を作り、演習Ⅱの卒業論文作成につなげていく。 ねらいの1つは、モノづくりに関する様々な知識や考え方を学び、また、それに関して議論 を行うことによって、企業経営や経済の動向に関する知識を深めるとともに、論理的な思考や 分析が出来るようになることである。もう1つは、卒業論文の作成に向けて準備を行って いくなかで、各自がテーマを設定し、資料を調べてまとめるなど、受動的な学習から脱却し、自 らの問題意識に基づいて、物事を探求することができるようになることである。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1. 前期では、受講生はテキストに基づいて報告資料を作成し報告を行う。報告者は、報告の なかでそのテーマに関する「論点」を提示し、議論を行うためのたたき台を提示する。な お、報告資料は事前に担当教員がチェックを行い、必要に応じて再提出を求めて、ディス カッションのベースとなりうる資料になるまで徹底して指導を行っている。 2. 製造現場にて撮影したビデオを用いて時間計測の実習を行い、計測したデータを基にして、 現場改善につなげるための図表等を作成、改善案を提案させるということを行っている。 現場作業の大変さや、工程設計の実態の理解、作業のムダを無くすことの重要性を理解さ せることにつなげている。 3. 後期には、卒業論文作成のための構想案作成および資料収集を行い、進捗状況を報告して いく形を取る。卒業論文はあくまでも学術論文であるという位置づけから、単なる既存文 献の知識をまとめただけではなく、必ず「新しい知見」の発見を求めている。そのため には、既存の研究成果をきちんとおさえたいうえで、その研究の学術的・社会的な意義や歴史 的経緯を踏まえて取り組むよう指導している。具体的には、自分自身でテーマを決め、卒 業論文の構想案を作成したうえで、半年間で複数回の報告を義務づけて、資料の作成・報 告・ディスカッションを行っている。こうした作業を通じて、大学における「学び」の意 味を理解し、また論理的な思考力を高めていけるようにしている。そのため、ゼミで使 用する「学術論文の作成要領」を別途作成し、学術論文とはどういうものか、一般的な文章 との違いは何かということから、具体的な記述方法、資料収集の方法などについても詳細 に説明し、学生に配布するとともに、オフィスアワーなどを活用して別途指導を行うこと でフォローを行っている。 4. 主に福井県内の製造業を対象とした企業訪問を行うことで、企業経営の実態を知る機会を 提供するとともに、今後の学習計画や就職活動に役立てられるようにしている。訪問した 福井県内企業には本学の卒業生・修了生が勤務しており、経営学の学習だけでなく就職に 際しての心構えやアドバイスなどをもらうことができた。また、自分自身の研究・教育に 関するネットワークを拡げることにもつながった。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅱ（2）3年生配当
② 内容・ねらい 受講生は、「演習Ⅰ」で学んだ内容を基にして、各人が設定した卒業論文のテーマに沿った形 で、論文の構想案（問題意識、目的と意義、課題、方法、章構成など）を作成し、必要な資料 を収集して、ゼミにて報告を行う。そこでの議論を通じて問題意識を明確にしていく。これら を踏まえて、必要に応じて聞き取り調査なども行ったりしながら順次論文を作成し、ゼミでの 報告・議論を通じて内容を詰めて、方向を明確にしていきながら、最終的に論文を仕上げるこ とが出来るようにする。ここでは、卒業論文の作成を通じて、論理的な思考能力を高めるとと もに、そのことを文章としてどのようにしてまとめていくかという、文書作成能力についても 高めていくことを目標としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

1. 「演習Ⅰ」のメンバーと一緒に、主に福井県内の製造業を対象とした工場見学を行うことで、企業経営の実態を知る機会を提供するとともに、今後の学習計画や就職活動に役立てられるようにしている。
2. 卒業論文作成においては、必ず実際の企業への聞き取り調査を行うように指導している。これによって、講義で学んだ知識が企業経営の現場とどのようにつながっているかを、より深く知ることが出来るとともに、調査対象の選定、アポ取り、質問状の作成、手土産の手配、お礼状の作成、原稿の内容確認といった一連の手続きを行うなかで、社会人としてのマナーについても指導を行い、その学生が社会に出て行ったときに役立つようにしている。
3. 聞き取り調査の実施にあたり、有意義な聞き取り調査となるように、また、先方の企業に迷惑をかけないように、「インタビュー調査の実施要項」を作成し受講生に配布している。これは、文書作成からビジネスマナーに至るまで詳細に説明しており、社会にでも役立つと考えている。
4. 「学術論文としての卒業論文」という位置づけを明確にしており、論文の体裁や引用の方法、文章の記載方法などについて詳細に指導している。中身についても、先行研究のフォローや新しい知見の発見に重きを置いている。そのため、早めにテーマ設定を行い、通常のゼミの時間以外でも頻繁に個別指導を行うなどすることで、大学での学習の集大成としての卒業論文を、より良いものにするようにしている。
5. 卒業論文報告会を実施し、卒業論文の内容についてパワーポイントで作成・説明をすることを通じて、プレゼンテーションの経験も積ませるようにしている。また、報告会にはゼミの後輩も参加し、次年度の参考になるようにしている。

(2)その他の教育活動

内容

1. 企業訪問については、教育活動の項目に記載しているが、こうした活動については、マスコミや本学 WWW サイトを通じて取り上げてもらうように、広報担当を通じて働きかけを行うことで、本学の活動を対外的にアピールし、大学そのものの広告宣伝につなげるとともに、本学学生の就職先開拓につながった。
2. 学生の課外活動としては、女子バレーボール部の顧問を担当している。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0 本】
②学術論文（査読あり）	【0 本】
③その他論文（査読なし）	【0 本】
④学会発表等	【0 件】
⑤その他の公表実績	
・ 木野龍太郎「【書評】中瀬哲史・田口直樹編著『環境統合型生産システムと地域創生』（文眞堂、2019 年）」（工業経営研究学会編『工業経営研究』第 34 巻第 2 号、pp.17-20、2020 年 9 月）	
	【1 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
なし	
(3)特許等取得	
なし	
(4)学会活動等	
・ 学会での役職 日本経営学会誌編集委員	
・ 学会でのコメンテーター、司会活動 日本経営学会関西西部会第 654 回例会・司会及びコメンテーター（2020 年 10 月 24 日）	

5. 地域・社会貢献活動

① 国・地方公共団体等の委員会・審議会
・ 福井県職業能力開発審議会委員（2020 年 10 月 11 日任期満了）
・ 県内企業キャリアアップ応援奨励金モデル企業選定委員会委員（2019 年 12 月 12 日より奨励金募集の都度開催）
⑥ 福井南高等学校オンライン進学説明会「福井の繊維産業と経済学・経営学」（2020 年 12 月 9 日）

6. 大学運営への参画

(1)補職
・ 入学試験本部・副本部長（2020 年 4 月 1 日～現在に至る）
(2)委員会・チーム活動
(1)のみ
(3)学内行事への参加
・ 福井県立武生商業高校・入試説明会（2020 年 7 月 17 日）
・ 福井県立坂井高等学校・入試説明会（2020 年 7 月 31 日）
・ 富山県立滑川高等学校・入試説明会（2020 年 8 月 3 日）
・ 私立福井南高等学校・入試説明会（2020 年 8 月 7 日）
・ 福井県立福井商業高等学校・入試説明会（2020 年 9 月 10 日）
・ 福井県立高志高等学校・入試説明会（2020 年 10 月 1 日）
(4)その他、自発的活動など